

出張報告書

平成29年 6 月 2 日

市議会議長 雪本 清浩 様

会 派 名 刷新クラブ

代表者氏名 京西 且哲

下記のとおり報告します。

記

1 目 的

① 新宮市：庁舎建て替えについて

2 出 張 先

① 新宮市：新宮市役所

3 出張期間 平成29年5月23日(火)

4 出張者氏名 京西且哲・西田武史・金子拓矢

5 てん末報告 別紙とおり

日 程 平成 29 年 5 月 23 日（火）13：00～15：00

訪問先 新宮市役所 和歌山県新宮市春日 1－1

テーマ 庁舎建替えについて

説明者 新宮市総務部総務課庶務係長 加子坂嘉隆 氏

調査趣旨

阪神淡路大震災の 2 年後に実施した岸和田市役所庁舎耐震診断の結果は、基準を大きく下回る数値であり、また現在の業務規模から耐震改修工事が困難と示されました。

その後、頻発する自然災害による被災で市民生活が混乱する中、市役所庁舎の機能が止まることで支援が進まず、人やまちの復旧・復興が遅れる事態を招きました。

本市では、平成 25 年 5 月に庁舎建替庁内検討委員会の報告書が提示されましたが、細部の業務はほとんど行われることなく停滞しています。

建替財源を確保していないため、昨年度に基金を設置し積立てを始めましたが、本年度当初予算では、積立て予算を計上せず建替計画を凍結しました。

議会は自然災害発生危機に備えるため、庁舎建替特別委員会の設置を内定し、大事業の円滑な進捗に向けた検討を実施することになりました。

新宮市は本年 3 月に庁舎を完成しましたので、基も新しい情報を得るため調査訪問しました。

調査内容

本市と同じく、阪神淡路大震災後に耐震診断を実施し、耐震性不足が明らかになり、平成 20 年 3 月策定の「新宮市長期総合計画」で新庁舎の建設を明記すると共に、「新宮市庁舎建設基金条例」を設置し本格的に動き出しました。

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災、同年 9 月の紀伊半島大水害が発生したことから、安全な庁舎建設の重要性が高まりました。

平成 24 年 3 月に基本方針策定、25 年 6 月に基本計画、基本設計を完了、平成 27 年 3 月実施設計完了、約 2 年の工事期間を経て本年 3 月に新庁舎を完成させました。

現地建替えのため仮庁舎への移転等の作業があるにもかかわらず、基本方針策定から 4 年で新庁舎での業務開始は本市も参考にすべきであります。

新庁舎の特徴は、市の「シンボル」ではなく機能を重視したシンプルな建物です。しかし、発生確率が高い南海トラフ巨大地震での減災対策として、調査により強固な地盤を選定したため基礎杭の必要がなく、揺れに対応する免振構造を採用しています。

また、維持・管理コストの削減を課題として、バルコニー設置（修繕時の足場不用）、地中熱の活用、雨水の利用を採用しています。

和歌山県の補助事業「公共施設等木質化支援事業補助金」を活用し、地元木材を議場及び執務室等に使用しています。

岸和田市の課題

- 1、迫る巨大震災への危機意識から事業計画の遂行に取り組むこと。
- 2、あらゆる制度を活用し財源を確保すること。
- 3、災害時を想定した庁舎の建設場所を検討すること。
- 4、庁舎利用者の状況をアンケート調査で知ること。